京都青少年ゆめネットワーク“ゆめっと京都”広報紙

ゆめっと NETWORK DREAMS

第48号

発行/
京都青少年ゆめネットワーク
京都市南区東九条下殿田町７０
京都府民交流プラザ内
（東館2階）
TEL ・FAX 075-672-2811
2006 February

ホームページ http://www.yumet.org/ E-mail:office@yumet.org

index

page 1・2
新企画 青少年について考える

page 3
シリーズ 加盟団体紹介⑥

page 4
ゆめっとフォーラム開催案内

新企画 青少年について考える

いま青少年を取り巻く環境が大きく変化しています。学校教育制度の改革や、青少年を対象とした凶悪犯罪の増加。また、ＩＴ化社会の普及による家庭や社会での青少年の生活の多様化や就労問題など、様々な問題がでてきています。そこで、地元京都で活躍される有識者の方を訪ね、幅広い視野やご経験からこれからの青少年のあり方についてお話しいただきます。

池坊保子氏
（いけのぼうやすこ）

［略歴］
昭和17年4月18日東京都に生まれる。学習院大学文学部在学中に、華道家元四十五世専永氏と結婚。2女の母。生け花の育成発展に尽力するとともに、講演、随筆などに活躍。元池坊学園理事長並びに学園長。 平成8年新進党衆議院近畿比例代表区より初当選後、文部科学大臣政務官や衆議院文部科学委員長を歴任。平成17年9月の衆院選では公明党 近畿比例区より出馬し、4回目の当選。

［衆院所属委員会での活動］
衆議院文部科学委員長、文部科学委員会理事、青少年問題に関する特別委員会理事。

第1回目として、文部科学大臣政務官や衆議院文部科学委員長を歴任された、地元京都選出の 池坊保子 衆議院議員を神﨑清一代表が訪ねてお話しを伺いました。

Q、これまで非常に熱心に教育問題に取り組んでおられますが、先生の取り組みについてお話しいただけませんか。

私は教育問題がやりたくて政治家になりました。もう10年ほどになりますが、その間に国民一人一人がこころ豊かになるようにという事で、「文化芸術振興基本法」をつくってそれを踏まえて、「子ども読書活動推進法」を作りました。また、先日の国会では、「文字活字文化振興法」ができましたが、私はこれらの働きかけをライフワークとして取り組んでおります。こどもたちを取り巻く環境は決して良好ではありません。しかし、その中であれをやってはよくない、これをやってはよくないと抑制するのではなく、良い事をもっとやっていきましょうと積極的に呼びかけていくのが、先を歩んでいく大人たちの務めだと考えています。その一つとして「本を読む事」について取り組みました。なかでも三つありまして、一つは朝の10分間学校で読書をすることです。本を読む機会が絶対的に少なくなっています。瞬間的な判断はテレビゲームで養うことはできるかもしれませんが、公平さや価値観、人間は何のために生きるのかや、想像力や予測の能力が欠如していると思います。想像力がないからキレるという事がある訳で、誰だって人間なのですから切れるんですよ。切れてそういう行為をしたらどうなるかという想像力や予測の能力がない。予測能力や思考力を養えるのが読書だと思っています。以前はなかなか取り入れられなかったのですが、最近では理解が得られ現在19,500校がこの取り組みを採用し、静かに授業に移行できたり、不登校の子が参加できるようになったりしてきていると聞いています。長年の努力により中学校では１年間に読む本の量が増えてきましたし、地道ではありますが、着実に成果が出てきています。二つめは、ブックスタートというイギリスではじめられたものです。地方自治体がこどもに本を読んであげましょうということで、母子手帳といっしょにこんな本があるよと紹介する制度です。このようにきっかけ作りをするのが、先を歩んでいるものの責務ではないかと思います。これはボランティア活動にも通じるのではないでしょうか。もう一つは、読み聞かせです。これは、おじいちゃんおばあちゃんがお孫さんに、また、若いお父さんお母さんが赤ちゃんに、美しい絵本を読み聞か

（次ページへつづく）